

## 【奨励賞】



氏名 ソウ ケイ  
国・地域 中国  
在日期間 6 カ月  
所属 鹿児島大学

### タイトル：距離

皆さん、こんにちは。そうけいと申します。中国から参りました。スピーチのテーマは「距離」です。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんは「遠くの親戚より近くの他人」ということわざを聞いたことがあるでしょう。しかし不思議なことに、現代社会のマンションでは、隣にどんな人が住んでいるのかもわからないままに暮らしているということが珍しくありません。たった壁一つの距離が近所づきあいを遠く隔たせ、まさしく個人化社会になったかのようです。

私は、子供の頃にお世話になった隣のおばあさんのことをずっと忘れることができません。小学生の時、母が毎日仕事に追われていたので、隣のおばあさんに放課後私の面倒を見てくれるように頼んでいたのです。最初、わたしは「血のつながらないおばあさんにとって自分は邪魔者なのではないか」と非常に不安でした。しかしその時、おばあさんは「大丈夫、これは信頼してくれている証拠でしょ、困ったときはお互い様よ」と母に言い、微笑んで私の頭を優しく撫でてくれました。それを聞いて、「なるほど、助け合ってこそ、信頼感を築くことができるのだ」とその言葉が胸に響きました。おばあさんと一緒に過ごした時間は私の一生の宝物になりました。

生活だけでなく、仕事においても助け合いながら絆を深め、距離を縮めるのです。そのような経験を私に教えてくれたのは、鹿児島市の中央駅にある「寿庵」という店でのアルバイトでした。アルバイトの最初は注文を間違えたり、ノンアルコールの代わりにカクハイボールを提供したりし、自分が迷惑をかけてしまったと思ったとき、「一人でなく、お互いに頼り合おう」というサポートの声を同僚がかけてくれました。以前は他人に迷惑をかけたくないと思っていましたが、人間関係には助け合うことが大切だということを再認識しました。また、自転車の鍵をなくしてしまったある晩、他人に迷惑をかけたくない性格から歩いて帰ろうと思いましたが、友人の余さんがとんかちを貸してくれ、ロックを開けてくれました。夜道を歩くのは怖いと感じていた私にとって、その夜、彼女はロックを開けるだけでなく、私が一人で抱え込んでいた心の扉も開いてくれたような気がしました。

また、去年、鹿児島市で行われたおはら祭りという盛大なイベントを満喫しました。大勢の人々が街中で踊りながら微笑んでいる光景は、私にとって初めてのことで、深い感動を覚えました。特に、盲ろう者のチームが手を取り合いながら揺れ動き、寄り添いながら前進し続ける様子は、まるで都市の人々がお互いに支え合い、助け合い、より良い未来に向かって進んでいるように感じられました。

笑顔で、さりげない行動で、お互いに助け合うこと。これこそ、私たちがこのコンクリートの町で、コンピュータ全盛の現代社会で、人間としての心を失わない頼りになるのではないのでしょうか。さらに大きく言えば、国と国との支え合いも同様ではないのでしょうか。

グローバル化が進む中、どの国も独善的に振る舞うことはできないでしょう。皆さんはご存知かもしれませんが、人類運命共同体という言葉が初めて登場したのは 2011 年、当時の中国の温家宝総理が東日本大震災の被災地を訪問した際、「自然災害の前で人類は運命共同体である」と述べたことによります。

まさにその通りです。「困ったときはお互い様。」地球温暖化、国際テロリズム、食糧問題など、共通の課題を数多く抱えているからこそ、人と人、国と国が手を携えて共に向き合うべきだと思います。

我々はこのような助け合いによって、お互いの距離を縮め、あらゆる形のない壁を取り払うことができるでしょう。民族と国境を越えて、人と支え合い、ともに美しい未来を築き上げていきましょう。

以上です、ご清聴ありがとうございました。

